

# 週目点

2006.10.9

▶ 紀陽銀と和歌山銀が合併

地域金融、改革これから



川本 裕子 早稲田大学教授

紀陽ホールディングス傘下の紀陽銀行と和歌山銀行が十日、合併する。メガグループが公的資金をほぼ完済し、不良債権問題は「解決済み」とする風潮もあるが、地域金融機関の改革は周回遅れた。

今年三月末時点で主要行の不良債権残高は四兆円台、不良債権比率も二%以下になった。一方、依然として、地銀の場合は比率が四・五%で残高は八兆円台、信金・信組なども約七%、六兆円台だ。

地域金融機関にも優良行は多い。しかし、公的資金を受けた地銀が自力で返済できている場合は少ない。地銀に不良債権が残り資金循環に滞りがあると、マクロ経済にも悪影響を与える。経営改革加速が必要だろう。

一部の地域金融機関は県境を越え広域に事業展開している。日本も海外と同様、広域展開するスーパリーショナル型か、より狭い地域に根ざしたコミュニティ型に二極化していくだろう。提供価値がますます問われる。

(C) 日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。